

日米姉妹都市交流研究事始

—大佐町とニューパルツ・ヴィレッジの姉妹都市交流を足掛かりに—

山内 圭

国際交流

A Pioneer Study on Sister City Relationship between U.S. Cities and Japanese Cities
—Based on the Sister City Relationship between the Village of New Paltz, USA and Osa Town, Japan—

Kiyoshi YAMAUCHI
(2003年11月5日受理)

岡山県大佐町とアメリカ合衆国ニューヨーク州ニューパルツ・ヴィレッジとの姉妹都市交流に筆者は深く関わっている。同交流のこれまでの経過を検討し、今後の展望について述べる。また、全国さまざまな自治体で行なわれている日米姉妹都市交流について、どのような点を、今後調査していくべきか述べる。

The author has been involved in the sister city relationship between the Village of New Paltz, New York, USA and Osa Town, Okayama Prefecture, Japan since its signing in 1998. This report reviews the relationship and its exchanges, and suggests future perspective of the relationship. The author also explains how he is going to research on other sister city relationships between U.S. cities and Japanese cities in the future, and then to expand his study field into sister city relationships between cities in the other countries and those in Japan.

はじめに

現在、日本の自治体と外国の自治体の姉妹都市提携数は都道府県関係のもの115件、市区関係のもの856件、町村関係のもの459件で計1,430件あるという¹⁾。その中で、相手国として一番多いのがアメリカ合衆国で、その数は2002年4月1日現在で430件を超える²⁾。また財団法人自治体国際化協会のホームページの姉妹都市一覧で調べてみると、都道府県と市町村（周辺の複数の町村が合同で外国の自治体と姉妹都市になっているものを含む）のものを併せると、計439件が掲載されてい

る³⁾。

岡山県大佐町とアメリカ合衆国ニューヨーク州ニューパルツ・ヴィレッジは1998年10月9日に姉妹都市縁組を行い、数多くの日米姉妹都市交流の中では、かなり新しいものになる。『2002日本の姉妹自治体一覧』によると、これは町村関係の姉妹都市縁組459件中416番目のものである。

ところで、「姉妹都市」とは英語の *sister city*⁴⁾ の訳である。しかし「姉妹」と訳すとどちらかが姉でどちらかが妹であるというように優劣をつけることになってしまうため、「友好都市」「親善都市」などと呼ぶ場合もある。ただ、大佐町と

ニューパルツ・ヴィレッジの交流で「姉妹都市(sister city)」の名称が使われ、実際多くの交流でも、そのように呼ばれることが多いので、本稿では「姉妹都市」という用語を使うことにする。

なお、世界で初めての姉妹都市縁組は1893年のスイスのベルンとアメリカのノースカロライナ州ニューベルンとのものである。そして日本の自治体が関わった初めての例は、長崎市とミネソタ州セントポールの間に1955年に結ばれたものである。

大佐町とニューパルツ・ヴィレッジの交流の初期から筆者は通訳および訪問団員として深く関わってきている。これまでのところ、後述するようににさまざまな交流行事が行なわれ、この交流は順調に進んでいるようである。今後もこの交流に深く関わっていくべき者として、他の自治体の日米姉妹都市交流を研究し、よい点は取り入れ、他の自治体の交流でうまくいかなかったことは改善し取り入れ、大佐町とニューパルツ・ヴィレッジのよりよい交流に生かしていきたいと考えている。また、さまざまな自治体の姉妹都市交流を研究し、その結果を公表することにより、他の自治体の交流にも陰ながら役に立ちたいとも考えている。

本論では、大佐町とニューパルツ・ヴィレッジのこれまでの交流を振り返りながら、それぞれの点において、今後どのように研究を進めていこうとするのかを明らかにしていきたい。

姉妹都市縁組のきっかけ

自治体間の姉妹都市提携や友好交流などの国際交流事業を積極的に推進している財団法人自治体国際化協会の紹介により、日本の自治体に 관심을寄せていたニューパルツ・ヴィレッジのトム・ナイクイスト市長夫妻⁵⁾が1996年11月13、14日と2日間にわたって大佐町を視察のため訪問した。

翌1997年9月25日から10月3日、大佐町は行政、議会、教育、経済、福祉、文化の各分野を代表する7名の訪問団⁶⁾をニューパルツ・ヴィレッジに派遣し、各施設・企業などの視察や人々との交友を深める中で、お互いの将来にわたる交流推

進の意思を確認した。

そして1998年10月8日から12日にかけて、ニューパルツ・ヴィレッジからナイクイスト市長夫妻を含め、行政、教育、経済、文化の各分野を代表する10名の訪問団が来町し、10月9日には姉妹都市縁組の調印式が行なわれた。公共施設、企業、各施設などを視察訪問し、秋祭りや町民運動会などのイベントにも参加して友好を深めた⁷⁾。

大佐町とニューパルツ・ヴィレッジの場合は、財団法人自治体国際化協会の仲介により、姉妹都市提携が実現したが、近年の姉妹都市提携にはこのような公共団体の仲立ちによる提携パターンも多いようである。両自治体は人口規模も、大佐町約4,000人、ニューパルツ・ヴィレッジ約5,000人（ヴィレッジ内にあるニューヨーク州立大学ニューパルツ校の学生は除く）と似通い、お互いに「大佐山」と「モホンク山」というシンボリックな山を持ち、自然あふれる立地条件というように、いくつかの共通点が見られる。

実際、姉妹都市のリストを眺めてみると、自然条件や国内での立地条件などの類似点を持つ組み合わせがいくつか見られる。例えば北海道内の自治体にアラスカ州の自治体との姉妹都市関係が多いのは、それぞれの国の最北端であることの共通点によるものであろうし、沖縄県の自治体にハワイ州の姉妹都市が多いのも、お互い海に囲まれた島嶼部であるという共通点が理由であろう。また、琵琶湖のある滋賀県にミシガン湖のあるミシガン州の姉妹都市が多いのは、大きさは違うもののよく似た二つの湖の形によるものであろうし、湘南海岸で有名な藤沢市とフロリダ州マイアミビーチ、七尾湾に面する七尾市とモンレー湾に面するカリフォルニア州モンレー、宮崎市と同じくビーチリゾートのバージニア州バージニアビーチなどは、似通った海岸が姉妹都市提携のきっかけになったようだ。

その他に目立つのは、町の主要産業が類似する都市の組み合わせである。豊田市とミシガン州デトロイトは自動車産業の町であり、富山市と City of Medicine として知られるノースカロライナ州ダーラムはともに「薬の町」であり、青森県田子町とカリフォルニア州ギルロイはともにニンニク

の町として知られている。日本貿易振興会（JETRO）はローカル・トゥ・ローカル産業交流事業を行い、地域産業の国際化を支援し、日本のある地域と外国のある地域との交流を促進する事業を展開しているが、そのような産業交流から姉妹都市交流に発展する例もあるという⁸⁾。

自治体内に存在する施設の共通点で結びついた組み合わせもあり、例えば浦安市とフロリダ州オーランドはともにディズニーの遊園地を持ち、茨城県東海村とアイダホ州アイダホフォールズはともに原子力発電研究所を持つ。筑波大学があるつくば市とハーバード大学やマサチューセッツ工科大学などの大学を持つマサチューセッツ州ケンブリッジは大学町つながりである。同じく大阪府立大学を持つ堺市とカリフォルニア州立大学バークレー校を持つカリフォルニア州バークレーも姉妹都市となっている。横浜市とカリフォルニア州サンディエゴ、そして神戸市とワシントン州シアトルは、港町の組み合わせである。また、地域のロータリークラブが姉妹クラブになったのが早かったということであるが、新東京国際空港（成田空港）のある成田市はサンフランシスコ国際空港のあるカリフォルニア州サンブルーノと姉妹都市になっている。

町にゆかりのある人物に関するつながりを持つ姉妹都市の組み合わせ例もあり、マシュー・カルブレイス・ペリー提督が黒船で来航した下田市と彼の出身地ロードアイランド州ニューポート、そして中浜万次郎（ジョン万次郎）の出身地土佐清水市と彼とゆかりのあるマサチューセッツ州のフェアヘーブンとニューベッドフォード、それから小泉八雲ことラフカディオ・ハーンが愛した松江市と彼が日本に来る前ジャーナリストとして10年間暮らしたルイジアナ州ニューオーリンズが姉妹都市となっているのがそのよい例である。

最近の例としては、ハワイ州オアフ島沖で、愛媛県立宇和島水産高校の実習船えひめ丸に緊急浮上したアメリカの原子力潜水艦クリーンビルが衝突する事故を契機に、愛媛県とハワイ州の姉妹交流が決まり、2003年11月22日に調印式が行われる予定である。そもそも先述したように日米姉妹都市提携の最初の例は長崎市とミネソタ州セント

ポールであり、この締結で原爆の投下された長崎が日米間の最初の姉妹都市として選ばれたのは日米の和解促進の意図があったと考えられる⁹⁾。

姉妹都市提携一覧のリストを見ていて、その他興味深いのは名前の共通性による組み合わせである。例えば、栃木県馬頭町とニューヨーク州ホースヘッズ、新城市とペンシルバニア州ニューキャッスル、鳥取県羽合町とハワイ州ハワイ郡、香川県詫間町とワシントン州タコマ（友好親善都市）などがある。

姉妹都市となり交流を続けていく上では、都市の規模、地域性、産業が似通っていたほうが交流を続けやすいことも考えられる。あるいは主幹産業が同じ場合は産業交流をする際に、お互い競合してしまうこともあり、逆に交流の妨げになってしまう可能性も考えられる。また、名前の共通性で結びついた場合は、話題性の面では申し分ないが、自治体間の交流ポイントをうまく見出さないと、交流がうまく進まない可能性も考えられる。以上、姉妹都市締結のいきさつを辿って見るだけでも、かなり興味深いものがある。今後はそれぞれの組み合わせのいきさつと、その後の交流内容などを併せて研究していきたい。

姉妹都市協定内容

大佐町とニューパルツ・ヴィレッジの協定書は日本語と英語でそれぞれ次のような内容となっている。

姉妹都市縁組締結に関する協定書

日本国岡山県大佐町とアメリカ合衆国ニューヨーク州ニューパルツ・ヴィレッジは、活発な人的交流を推進することにより密接な関係を築き、両自治体の発展を促進するとともに、日本国とアメリカ合衆国の親善に寄与し、ひいては世界の平和と繁栄に貢献することを確信して、ここに姉妹都市を締結する。

この姉妹都市縁組により、両自治体は文化、教育、スポーツ、経済、観光など幅広い分野で交流と協力を行い、友好関係を将来に亘って進展させることを誓い、その証としてこの協定書に署名す

る。

AGREEMENT on THE SISTER CITY RELATIONSHIP between THE VILLAGE OF NEW PALTZ and THE TOWN OF OSA

The Village of New Paltz in the State of New York, U.S.A, and the Town of Osa in Okayama Prefecture, Japan, in order to promote active human exchanges for the establishment of close relations, to facilitate the development of their municipalities and, to contribute to the goodwill of Japan, the U.S.A. and the peace and prosperity of the world, hereby enter an agreement to establish a Sister City relationship.

In accordance with this agreement, both municipal shall promote exchanges and cooperation in broad areas such as culture, education, sports, business, and tourism, and vow to develop friendly relations in to the futures. To confirm the above accord, signatures are hereby fixed on this agreement.

この協定書を読めば、この交流の目的が、両自治体の発展、両国の親善、世界平和と繁栄であることがわかる。そして交流内容としては、文化、教育、スポーツ、経済、観光面での活発な人的交流が望まれていることも読んで取れる。いろいろな姉妹都市交流の協定書を比べて、その意義、目的等を比較してみることも非常に興味深いことだと思われる。また、協定書には、それぞれの姉妹都市交流の当初の方向性も盛り込まれていると考えられ、それを探っていくのも興味深い。

姉妹都市交流担当部局

大佐町では1999年8月に、自治体間の交流から住民同士の交流に発展することを目指して、大佐町国際交流協会を発足させ、町の総務課源流振興室がその事務局となっている。ニューパルツ・ヴィレージとの交流窓口は、一時、教育委員会の職員が担当したこともあったが、原則として源流振興室の担当職員が行なう。役所の人事異動で担当職員が数年毎に交代していたが、現在は国際交流と森林事業を専門に担当する英語の堪能な職員

がその任に当たっている。

また、国際交流協会の運営は個人会費年2,000円（学生・生徒は年500円）、法人会員会費は年10,000円となる会費収入の他に、姉妹都市訪問や訪問団歓迎のための町からの委託金をもって行なわれている。

『姉妹自治体の活動概況2002』¹⁰⁾によると大佐町のニューパルツ・ヴィレージとの交流経費は1999年度が小・中学生による作品・学校紹介等交換に20千円、訪問団の派遣に3,036千円の合計3,056千円、2000年度は中学生の派遣（友好交流）に2,000千円、社会人の親善友好訪問団受け入れに1,500千円の合計3,500千円、2001年度は中学生の受け入れ、派遣（友好交流）に3,392千円、社会人の派遣、交流先での祭りに参加、出店し交流に2,600千円、合計5,992千円であった。

一方ニューパルツ・ヴィレージ側では、ニューパルツ国際交流協会という市民の有志で作られた組織が交流の窓口となっている。これはボランティア組織であり、自治体からの財政的なサポートはわずかである。

また、姉妹都市交流から生まれた中学生の相互派遣は、大佐町側では町の教育委員会が窓口となり、ニューパルツ・ヴィレージ側ではニューパルツ・ミドルスクール（の校長）が窓口となっている。

インターネットでホームページを検索し調べてみると、全国の自治体、特に姉妹都市を持つところの多くに国際交流協会（国際親善協会など名称が異なることもある）が存在し、姉妹都市交流活動に関わっているようである。この中には大佐町のように、自治体がその事務および財政に大きく関わっている場合もあれば、独立したボランティア団体も少数ながらあるようである。

今後の調査研究では、それぞれの交流でどのような組織や部局や担当者が姉妹都市交流に関わっているのか、そのための予算はどのようになっているのかなどについて調査していきたい。日米姉妹都市交流の場合は主に交渉や連絡に英語あるいは日本語が使用されていると思われるが、担当者あるいは担当部局の言語コミュニケーションの問題はどのようにクリアしているのかなどについて

も調べてみたい。資料を収集しそれらを確認するだけでなく、直接その自治体に出向き、担当者や担当組織に話をうかがい、可能な限り交流行事等も見学することで、明らかにしてゆきたい。

また日本側のみならず、アメリカ側ではどのような組織または担当者が窓口となっているのか、どのような予算組みがされているのかなどについて明らかにすることも、今後のよりよい日米姉妹都市交流の方法を探っていくために必要なことである。そのためには、アメリカの自治体からも資料を収集するとともに、担当者や担当部局に直接取材することはとても有益である。

交流内容

親善交流団

大佐町とニューパルツ・ヴィレッジの交流は姉妹都市協定締結の前年の1997年に大佐町が訪問団を派遣したのを皮切りに、毎年交互に訪問団を派遣し合っている。すなわち、現在までのところ、大佐町は1997、1999、2001、2003年の4回、そしてニューパルツ・ヴィレッジは1998、2000、2002年の3回、訪問団を派遣している。訪問団の構成は、どちらも最初はそれぞれの首長及び各方面の代表者で構成されていたのであるが、最近是一般市民や大学生も訪問団に加わるようになり、交流に関わる町民の層の拡大が感じられる。

筆者は大佐町からの訪問団の一員として1999年と2001年にニューパルツ・ヴィレッジに派遣された。またニューパルツからの3度の訪問団の通訳を担当した。

2001年9月にニューパルツ・ヴィレッジに派遣された際には、帰途に着く直前、ニューヨーク市のラ・ガーディア空港で9月11日の同時多発テロに遭遇し、再びニューパルツ・ヴィレッジに引き返し、さらに6日間にもわたり暖かいお世話を受けた。このおかげで両自治体の絆がさらに強くなったという意味では、特筆すべき事項である。

中学生の交流

2000年に大佐町から10名の中学生がニューパル

ツ・ミドルスクールに派遣され、それから大佐町では毎年度、中学生を派遣し続けている。ニューパルツ・ヴィレッジ側からは今のところ中学生（ミドルスクールの生徒）の訪問団の派遣は1度だけである。

大学生の交流

新見公立短期大学は一市四町からなる阿新広域事務組合の経営で、大佐町も設立母体の一角をになう。そのように大佐町も関わる新見公立短期大学はニューパルツ・ヴィレッジ内にあるニューヨーク州立大学ニューパルツ校と協定覚え書きを交わし、2002、2003年と2度に渡り訪問団を派遣している¹¹⁾。筆者は2度とも、この引率を行なった。州立大学ニューパルツ校から大佐町への訪問団の派遣はまだ実現していないが、内外からそれを望む声もあり、早期の実現が期待されている。また長期間の留学生の交換も待ち望まれる。

大学間の交流としては、教職員の交流も行なわれるのが理想的であり、2003年より新見公立短期大学の矢藤誠慈郎助教授（専門教育経営学）が州立大学ニューパルツ校で10ヶ月間の研究留学を行っている。また、美術担当の金山和彦講師が姉妹都市間芸術交流においてニューパルツ・ヴィレッジに贈る芸術作品を完成させるため、2003年10月に派遣された。

芸術交流

両自治体とも訪問団の中に、芸術に秀でた団員を加え、芸術面の交流も盛んに行なわれるようにしている。特に大佐町側からは、神楽、傘踊り、銭太鼓、絵画、歌、書道、組みひも、着付けなどの芸術・芸能に秀でた者を派遣し¹²⁾、ニューパルツ・ヴィレッジでそれらを披露している。また、ニューパルツ側からもプロ歌手¹³⁾や芸術教育センターのセンター長の派遣があった。

そして、前述したように2003年には芸術作品の交換事業が行なわれる。これはそれぞれを代表する芸術家が、作品の構想を示し、相手側に図面を送り、材料等は現地調達をして、その芸術家が相

手の自治体を訪問して作品を完成させるというものである。この事業によりそれぞれの自治体に相手の自治体のシンボルとなる作品が作られ、展示されることになる。

他団体の交流

訪問団の派遣に併せて、ロータリークラブやライオンズクラブの会員の交流が行なわれることもあり、訪問団員にそれぞれのクラブの会員がいる場合、訪問中の例会に招待される交流を何度か行なっている。

また、新見ライオンズクラブは新見公立短期大学の訪問団派遣に賛同を示し、参加学生の旅費の一部を負担する事業を行なっている。

その他の交流、または関連事業

両自治体が交流を始め、数年が過ぎ、交流に関わった人たちの個人的な訪問や文通などの交流も進んでいる。その交流を促進する意味合いもあり、大佐町国際交流協会主催で初級英会話講座や英文Eメール講座などを開催し、筆者が講師をつとめている。初級英会話講座では町内のALT (Assistant Language Teacher、外国人英語指導助手) とともに、小学生から年配者までが、初級程度の英会話ができるよう指導している。また、英文Eメール講座においては、ニューパルツ・ヴィレッジの高校教員の協力も仰ぎ、受講生それぞれに文通相手を斡旋してもらい、英文によるEメールの交換を楽しんでいる。また大佐町国際交流協会ではニューパルツ・ヴィレッジからの訪問団が来る時期に合わせ、ホームステイ先の町民を中心にホームステイ英会話講座やマナー講習会等を開催し、筆者も講師をつとめている。この交流事業の進行につれて、町民の英語に対する学習意欲と国際意識が高まってきたことがはっきり見てとれる。

また、新たに準備が進められつつある交流に、商業的交流がある。ニューパルツ・ヴィレッジの側では初期の頃からかなり熱心にこれを進めようとしていたが、大佐町側がやや消極的であった。

最近では大佐町商工会が商業的交流に向けての勉強会を開き、交流の準備を始めている。

それから、ニューパルツ側では少年野球チーム交流の話も持ち上がっているようである。日本人選手のアメリカ大リーグへの進出が相次ぎ、日本における関心も高まる中、本場アメリカと野球交流をすることは、日本の野球少年(少女)たち、そしてその保護者や指導者にとっても、非常に刺激的なことであろう。大佐町のチームがニューパルツ・ヴィレッジを訪問した場合は、交流試合のほか、ニューヨークを本拠地とするヤンキースやメッツの試合観戦もでき、とても夢のある訪問ができそうである。

今後の交流及び交流内容についての研究

大佐町とニューパルツ・ヴィレッジにおいては、以上のように交流が進められている。今後もマンネリに陥ることなく、これらの交流を進め、さらに発展させることに筆者は協力していきたい。また、他の姉妹都市交流で行なわれている交流内容を調べ、よいものを取り入れて行きたいし、大佐町で行なわれている交流活動も他の自治体に紹介し、参考にしてもらいたいと思っている。

今後の交流に予想される問題点

毛受敏浩によると、姉妹都市交流の発展サイクルにはおおよそ次のような4段階があるという¹⁴⁾。それは、開始期、成長発展期、停滞期、衰退期、の4段階である。この推移モデルは理念的なものであり、必ずしもこの通り進むとは限らないとのことであるが、現在、大佐町とニューパルツ・ヴィレッジの交流は開始期から成長発展期に向かっている段階だと筆者は考える。今後、停滞期に、そして衰退期に陥らないためにも、他の団体の交流がどのようにこの危機的段階を乗り切ったか、あるいはなぜ、このような危機的段階に陥ってしまったかを調べることにより、今後の交流のための提言をしていきたいと考えている。そして、調査結果を還元することにより、他の危機

的状況に陥っている交流団体にも、危機を乗り切るヒントを与えてゆけるものと考えている。

姉妹都市交流の方針を変えかねない変化の一つとして、各自治体の首長の交代がある。実はニューパルツ・ヴィレッジでは2003年の市長選挙で、これまでこの交流に尽力してきたナイクイスト市長が破れ、26歳のウエスト氏が新市長に当選した。新市長がどのように交流を引き継ぐのか見守りたいところである。だが、自治体の執行部ではなく国際交流協会が主に交流を推進しているので首長の交代による交流の方針の変化は少ないように思われる。

それからもう一つ、交流の方針を変える可能性があるのが、現在、日本で進んでいる市町村合併である。大佐町の場合も近隣の市町との合併の動きがあり、今後の姉妹都市交流に影響を与える可能性がある。合併の相手にも姉妹都市がある場合、そしてそれが同じ国の姉妹都市である場合は、影響があらわれるかもしれない。市町村合併が姉妹都市交流に与える影響についても、国内のいくつかの例に当たり、調査していきたい。

今後の姉妹都市交流研究

以上、大佐町とニューパルツ・ヴィレッジとのこれまでの交流を振り返りながら、日米姉妹都市交流研究としてどのような点を研究していくべきかについて考察した。日米姉妹都市交流は、全国の自治体でさまざまな形で展開されており、今後いろいろな切り口での研究調査が考えられる。まずは、全国の中でユニークな交流を進めている自治体の交流を探し、実際どのような交流が行なわれているのか、実地調査も含め、調べてみたい。また、岡山県内や近隣県内の自治体がどのような交流を行なっているのかについても詳細に調べてみたいと考えている。それから、歴史が古い日米姉妹都市交流、例えば1955年に始まった長崎市とミネソタ州セントポール、1957年からの仙台市とカリフォルニア州リバーサイド、横浜市とカリフォルニア州サンディエゴ、三島市とカリフォルニア州パサディナ、大阪市とカリフォルニア州サンフランシスコ、神戸市とワシントン州シアト

ル、岡山市とカリフォルニア州サンノゼなどの50年近くに渡る交流の歴史も調べてみたい。

または、その町にまつわる有名人物のつながりや町の名前のつながりから始まった交流について、どのような交流が続けられているか、興味深く研究できるであろうし、自然的あるいは産業的に似通っている都市同士の交流内容についても、探ってゆきたいと考えている。

自治体の中にはアメリカの都市も含め複数の姉妹都市を持つものもある。例えば京都市は9つの自治体と、横浜市、川崎市、大阪市はそれぞれ8つと、千葉市、神戸市、福岡市は7つと、仙台市、金沢市、姫路市、広島市は6つの自治体と姉妹都市交流を行なっている。そのような自治体が多岐にわたるバランスをとってそれぞれ交流を行なっているのかについて調査してみるのも大変興味深い。

そして、日本側からだけでなく、アメリカ側の視点からも姉妹都市の交流研究を行なってみたい。取りあえずは、大佐町と交流しているニューパルツ・ヴィレッジに行き、ニューパルツ・ヴィレッジ側から大佐町との交流に携わり、支えてみたいと思うし、ニューヨーク州の中でも位置的に中央に近いニューパルツ・ヴィレッジを基点に、ニューヨーク州内で日本の都市と姉妹都市関係を持つ自治体（現在7件）にも取材し、どのような交流を進めているか調査を行なっていきたい。姉妹都市交流はもちろん日米間だけのものではなく、それ以外の国との間でも盛んに行なわれている。アメリカとの姉妹都市交流の研究からさらに発展させ、他の英語圏の国との姉妹都市交流の研究、そして、それ以外の言語圏の国との交流と、研究を発展させることが可能である。そして、この研究結果を公表し、交流を進める自治体に還元すれば、各自治体の交流事業の発展にも貢献できると思うし、それがささやかながら、世界平和への貢献となっていくのではないかと考える。

ま と め

以上、大佐町とニューパルツ・ヴィレッジとの日米姉妹都市交流に関わった経験から、日米姉妹

都市の交流研究を始め、それを将来的には他の国との交流の研究へと幅を広げるといふ、壮大な夢を展開したが、これが夢で終わらぬよう、与えられた時間、予算、機会、人脈、才覚を大切に、研究を進めていきたいと思う。

謝 辞

大佐町とニューパルツ・ヴィレッジとの日米姉妹都市交流のさまざまな場面で筆者を起用して下さった梅田和男町長をはじめとする大佐町の皆様と、筆者のこれまで6回の訪問の際、いつでもあたたかく迎えてくださるニューパルツ・ヴィレッジの皆様へ感謝の意を表します。

注

- 1) 『2002日本の姉妹自治体一覧』財団法人自治体国際化協会、東京、2002。
- 2) 毛受敏浩編著『草の根の国際交流と国際協力』明石書店、東京、2003、p.50。
- 3) 財団法人自治体国際化協会（CLAIR）ホームページ <http://www.clair.or.jp/cgi-bin/simai/j/05.cgi?n=アメリカ合衆国>（2003年9月1日）。
- 4) 英語における“sister”という語は、元来、姉と妹の優劣差を意識しない語であり、女性の同胞であるということを表す語である。ここで“brother city”という語を使わず、“sister city”と表すのは、従来、英語において町や国などは女性扱いをされてきているからである。日米姉妹都市交流では、アメリカ側が“sister city”という関係、つまり平等な考えで接しているのに対し、日本側は「姉妹」都市という関係、つまり優劣差があり、どちらかというアメリカ側が「姉」であり、自分達日本側が「妹」である意識があるように思われる。この意識の差については今後の研究で次第に明らかにできればと思っている。
- 5) ニューパルツ・ヴィレッジはアメリカ合衆国ニューヨーク州にある人口約5,000人、ハドソン河沿いに広がる田園地帯の自治体で、ニューヨーク・シティからも州都オルバニーからも車で約1時間30分の距離にある。ニューパルツ・ヴィレッジの周りを取り囲むようにニューパルツ・タウンという自治体があり、この形態は合衆国でも珍しいそうである。
- 大佐町では第1回視察団が訪問した頃はニューパルツ・ヴィレッジを「ニューパルツ村」と訳していたが、自分達大佐「町」より人口が多い自治体を「村」と訳すのに抵抗を感じたためかどうか、次第にニューパルツ・ヴィレッジとカタカナ語表記するようになった。その自治体の首長は初期の頃より「市長」と訳されて呼ばれている。これは“Mayor”という語に対し辞書では「市長」という訳を第一にあてているためだと考えられる。このあたりの訳語に関しても前項の註4に記したような日本人の優劣感が表れているようで興味深い。本論ではこのことは扱わず、今後の研究で明らかにしていきたい。
- 6) 訪問団員の肩書きを参考のため列記しておく。団長が助役であり、団員は、町議会議員、商工会長、文化協会事務局長、福祉施設長、教育委員会次長、町ふれあい事業推進室員であった。
- 7) 岡山県大佐町『姉妹都市ニューパルツヴィレッジ第2回訪問団活動報告書』、1999、p.4
- 8) 上岡美保子・小川祐子「海外との交流について」、姉妹都市経済交流勉強会第1回、大佐町商工会、2003年8月29日。
- 9) 毛受、p.58。
- 10) 『姉妹自治体の活動概況2002』財団法人自治体国際化協会自治体国際協力センター、東京、2003。
- 11) 第1回訪問団については、山内 圭、桑原一良、塚本千恵子、矢藤誠慈郎「ニューパルツ学術訪問団報告記」『新見公立短期大学紀要』第23巻2002、pp.169-184を参照。
- 12) 大佐町では人選の際、地域の文化の紹介も重視しており、公式な役職にあり、文化技能に秀でる人物を積極的に派遣している。そのため、1999年には神楽の太鼓を叩き舞うことのできる二人の町議会議員が派遣された。また大佐町の銭太鼓同好会から3人の女性（うち1人は町体育協会役員、もう1人は町職員）も派遣された。
- 13) ニューヨーク州で活躍する Vickie Russell さんが2000年にニューパルツ・ヴィレッジの訪問団の一員として大佐町に派遣された。彼女の歌手活動については <http://www.vickierussell.com/> を参照。
- 14) 毛受、pp.53-55。